

群馬県で一番低い山はどこだ？
～上州の三つの山を巡る夏の旅～

各都道府県で一番低い山へ行って見る旅、今回は群馬県。しかし、「群馬県で一番低い山」はどこか？ 事前の調査段階で少々難航した。

三省堂「日本山名事典」では、群馬県で一番低い山は「天神山 74m」と示されていたが、地図や各種情報を調べてもみつからない。ある筈の群馬県太田市には「天神山古墳」というものがあるが、この古墳は墳長210mで東日本では最大の物らしい。しかし、これは55.2mの三角点を持っているので別物のようだ。

おまけに、「群馬県で一番低い山」をインターネットで検索すると、この天神山を示す情報の他に伊勢崎市の「権現山 (91m)」という情報も現れてきた。

いよいよ特定に苦慮している時に大変重要な決め手に気が付いた。日本山名事典には位置情報として「緯度・経度」が付記されている。事典の中の「天神山 74m (群馬県太田市)」は「N36.18.02 E139.22.24」、この情報を元に地図情報を確認したら難問は解決した。

太田駅北西 1Km ほどの所にある「高山神社 (高山彦九郎を祀っている神社)」、国土地理院の地形図で確認すると三角点も標高点もないが高さは合致した。

高山神社と天神山の関係がわからないので調べて見たら、こんなことがわかって来た。

「明治6年に高山彦九郎の生誕地である細谷村に石祠が設けられたが、金山丘陵の支脈の小丘である天神山中腹に社殿が造営された。さらに昭和7年に天神山の山頂に移された」

この一連の流れの中で、天神山と言う名は消えてしまい「高山神社」という通称だけが生き残ったということらしい。ここまでわかって来ると、「折角だから、この三つの山をすべて歩いて見よう」というプランが浮上し、猛暑の8月に強行することにした。

平成25年8月29日

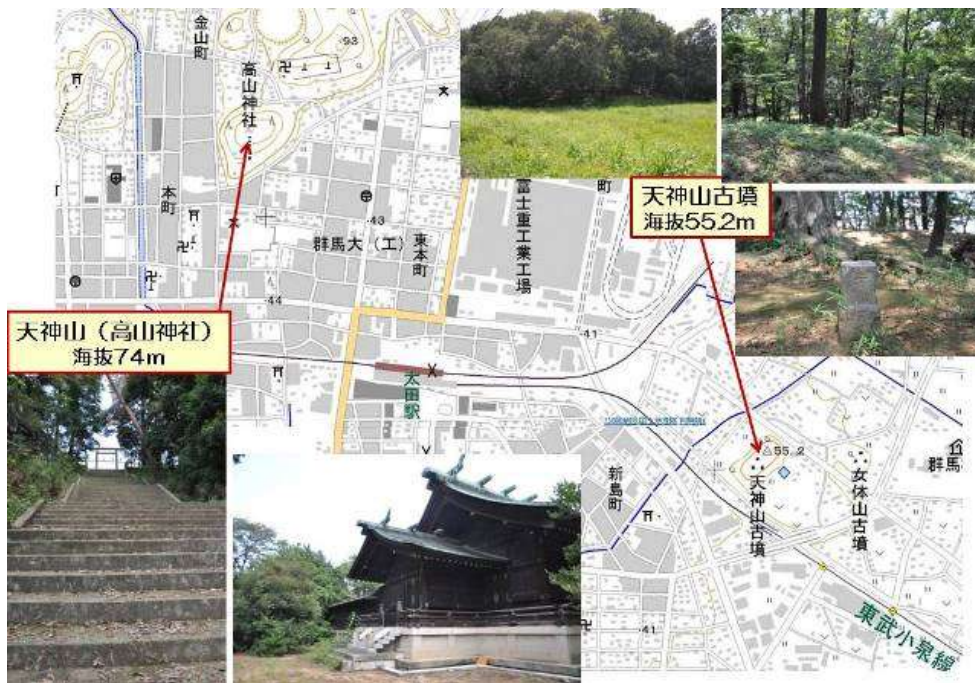
八千代台発 7時42分、少々寝坊してしまったため通勤ラッシュの時間になってしまった。浅草着 8時28分。東武線の浅草駅へ移動して、8時40分発りょうもう5号の特急券とコーヒーを買って乗車。急カーブしたプラットホームと大きな隙間があいている乗車口が懐かしい。乗客は少なくガラガラだったが、北千住で沢山乗って来た。コーヒーを飲みながら新聞を読み、景色と駄眠を楽しんでいる内に館林。

太田着は 10時07分。この駅に降り立つのは10年ぶり位になるだろうか。何より高架になり新幹線の駅のような豪華な駅ができてしまったのには驚いた。しかし、豪華なのは駅舎部分だけで、建物全体としては(おそらく店舗の導入を狙っていたのだろうか)ガラガラで、待合室もないし店もない。北口と南口をつなぐ公共通路と観光案内所があるだけで、他には何も無い。駅前広場もたつぷりとられているが空き地のままで、退屈そうなタクシーが数台停まっているだけ。あるのは、燦々と降り注ぐ太陽と、駅前広場の野外に設置された(無意味と思える)豪華なミスト設備。

観光協会の案内所に入り、市内の地図を貰うことにした。職員の方が地図のコピーの中に高山神社への道を蛍光ペンで示してくれ、天神山古墳への行き方も教えてくれた。

駅前の変容ぶりを撮影の後、10時30分に出発。暑いので道幅が狭い路地裏を選んで歩いて行くと、住宅地の一番奥に小山が現れた。途中で石段の脇に広いスペースがあったが、おそらくこれが最初に社殿ができた場所に違いない。石段が何段あるか数えながら上り始めたが、途中で振り返って景色を眺めたりしている内にわからなくなってしまった。多分120～130段位あったと思う。

10時45分位だっただろうか、山頂に到着。山頂には本殿があり、一段下がった所に社務所もあるが人の気配がしない。社殿の後の斜面で草を刈っている機械の音だけがやけに暑苦しく鳴り響いていた。「ここが高山神社である」というような表示や故事来歴を書いた説明看板も全くなく、ましてやここが天神山という山であることなど解りようもない頂上だ。だから静かに楽しむことができるという良さもある。山がさほど高く



ない上に樹木の背丈が高いため周囲を見下ろす眺めはまったくないし、風の通りも悪い。清涼飲料水を二口ほど飲んで、写真撮影と小休止。静かすぎて張り合いがなくなりそうな山頂を後にして、次の目的地「天神山古墳」へ移動開始。県道を東へ歩くが、大きな建物が少ないので太陽の光を避ける場所がない。太田駅入り口の交差点に美味しそうなインドレストランがあった。この暑さ、昼食は絶対インドカレーだなと思

いながら通過。富士重工の前（スバル町1番地）を通過して、大泉への道を分ける追分地蔵を過ぎてしばらくすると前方に鬱蒼と茂った山が見えてきた。

小さな疎水を渡って少し進むと、右手の斜面に「天神山古墳」と書いた石柱が現れた。斜面はきれいに草刈られていて、どこからでも入れるような感じになっている。ここは北側の後円部で、古墳全体の正式な進入路は東側にあるようだが、かまわず登って見ることにした。県道は海拔41mなので、古墳の頂上までは15m足らずの登りになる。高度を上げるにつれて涼しい風が頬を撫でて気持ちが良いが、やぶ蚊の攻撃もきびしい。後円部の頂上では三等三角点（55.2m）の石柱が出迎えてくれた。樹間に住宅地の家並みが見え、足元の内濠跡に広がる夏草の深い緑色が印象的だった。前方部に向かうなだらかな曲線を描く稜線を辿りながら、古墳全体の形を体感するようにぐるりと歩きまわってから元の県道に下山した。裏口から登って裏口に下りたため、説明看板等はひとつも見なかった。

県道を西に戻って太田駅入り口で、先程目をつけておいたインドレストラン「ダルバル」に飛び込み昼食。本日の日替わりランチである野菜カレーにスープ・サラダ付きでさらにラッシーが付いて750円。インド人が経営している店のようで、味は素晴らしい。暑さに勝てる体になったような気がした。

次の伊勢崎行は13時23分発、ちょっと時間があるので駅前を散策。昔出張で来た街角をぶらぶらしてみたが、暑さであまり長続きしなかった。各駅停車伊勢崎行を待つホームの反対側に小一時間後に出る上りの館林行が停まっていたので、冷房完備の待合室として使わせていただいた。

13時23分定刻通り発車。細谷・木崎・世良田・・・関東平野の平坦な田園地帯を走る車内は静寂。伊勢崎13時48分着、高架になった両毛線と高架工事が進んでいる東武線が一緒になった駅だが、町の大きさと比べると駅が立派過ぎるような気がしないでもない。当初計画より一時間遅れて進行しているので、予定していたバスに乗ることはできず、次は45分後。駅の中や駅の前に時間を潰せるような場所はないし、暑いので思い切ってタクシーを使うことにした。

タクシーの運転ちゃんに地図を見せて、「豊城町の郵便局（地図上のマーク）のところまで」と言うとお解りされた。（まさか、「権現山の入り口まで」とは言えないので）

県道でタクシーを降りて北に入る路地に立つと、住宅地の中に見上げるような高さの山が現れた。東側に回り込むと「蓮（はちす）神社」の鳥居と参道が出迎えてくれた。いくつも鳥居をくぐって、少しずつ石段を登って行くと中腹と思われる場所に蓮神社の本殿が現れた。一礼の後更に上へ登って行くと山頂にたどり着くことができた。時計を見ると14時ちょうどだった。「権現山山頂 海拔91m」の標識があり、その横に宝塔とその説明の看板が建っている。よく手入れされた山は近隣の人たちの散歩場所にもなっているようだった。周囲の住宅地は海拔67mぐらいなので、標高差24mあり見晴らしは良い。何よりも猛暑で発熱した体

に涼風がありがたい感じがした。

県道に出てバス停に行ったら、次のバスまで30分余りあることがわかった。今日の予定はもうクリヤしたので、のんびり歩いて見ることにしたが……。頭上からの暑さとアスファルトからの照り返しとでとてもたまらず、次のバス停（文化会館前）でギブアップ。まだ開店時刻にならないお店の軒先で清涼飲料水を飲みながらバス待ちをすることにした。

15時20分発のバスで伊勢崎駅へ。両毛線経由で帰るか、東武線経由で帰るか、両駅の間を行き来しながら熟慮の結果、太田に出てりょうもう号で今朝のコースを浅草へ戻ることにした。15時56分発各駅停車太田行は、真っ黒に日焼けした高校生・中学生が沢山乗ってきて賑やかになった。他愛ない会話を盗み聞きしているとこちらも楽しくなってくる。

太田16時29分発特急りょうもう36号、安くて速い東武線。車窓の景色を楽しみながら浅草へ向かって関東平野をひた走り。

かくして、「群馬県で一番低い山」を巡る日帰りの旅は閉幕となったが……。さて、結論として一番低い山はどの山と言うことに？ ま、そんなことはマニアに任せておけばよからう。

以上

